



さんが

第一一九号

令和 五年

西暦 二〇二三年

秋彼岸 九月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

夏休みが終わり、学校が始まっています。この時期に、辛い気持ちになる子どもが多いと、よく耳にします。

学校が、辛い場所となってしまうのでしょうか。誰かが傷つけられるニュースには、胸が痛むものです。

どんな人でも、自分が傷つけられるのは嫌だと感じているはずです。それなのに、どうしてもこんなことをしてしまうのだらうと思う方も、いらっしやるでしょう。

ある緩和ケア医師の本に、「誰かを傷つけてしまうのは、その人の苦しみがあまりに大きく、誰かを傷つけずにはいられなくなってしまったからではないか」と書かれていたのを読みました。

傷つける連鎖というような、悪循環ですね。その本では、どんなに苦しくても、まわりの誰も、そして自分自身をも、傷つけないで生きていけるために、「支え」を探す必要がある、と投げかけています。



そして、その人の苦しみが大きいならば、そこからこそ、「支え」を見つけることができる、と書いています。その支えは、三つの柱にたとえられています。

一つめは「時間の柱」 たとえば、将来の夢です。

二つめは「関係の柱」 たとえば、誰々がいるから生きられる、という気持ちです。

三つめは「自律の柱」 自分がすることの選択を、自分で決められることです。

この柱が、自分を支えてくれる大きな力になるというのです。三つそろえば素晴らしいですが、たとえひとつしか得られなくても、そのひとつを太くすることでカバーできます。どんな人でも、生きる支えを得られるのです。苦しくても、人を傷つけないで生きられる人になれるのです。

(参照 『13才からの「いのちの授業」』 小澤竹俊著)

秋の団参のご案内

恒例の参拝旅行、四年ぶりに一泊で開催です。

行き先は中国地方。岡山県の洞松寺（とうしょうじ）という、曹洞宗の修行道場に参拝し、中国山地を越えて、鳥取県の皆生温泉に泊まるコースです。

日時 11月16日（木）～17日（金）

宿泊 鳥取皆生温泉「つるや」

参加費 三〇、〇〇〇円

団参はコロナ禍で二年間中止の後、昨年に、日帰りで復活いたしました。そして今年は、満を持しての一泊となります。

しかも、住職が教区長になって、初めての団参です。大勢のみなさまと、ご一緒したいと思っております。

締め切りは9月末日。詳しくは、お寺までお問い合わせください。



秋のお彼岸法要

お中日午前10時からです

9月23日（土・秋分の日）いつものようにお勤めいたします。

お彼岸にあたり、ご先祖さまに思いを馳せるお時間を、ぜひお寺にてお過ごしくださいませ。



お忘れもの お預かりしています



花柄の、日傘とマスクです。
日傘は七月八日
お盆法要の時の、
お忘れものよう
です。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常